小倉工業北辰会報

編集兼発行
北九州市小倉北区
白萩町６－１
福岡県立小倉工業高校
北辰会事務局
TEL 093(571)1124
FAX 093(583)4924

平成二十六年度 北辰会総会開催される

平成二十六年度小倉工業高等学校北辰会総会は、五月二十五日（日）に小倉飯店（北九州市小倉北区堺町）で開催されました。今年の当番幹事は平成三年と平成十五年卒業生が務めました。

総会は巴山高敬氏（平成三年工業化学科卒）が司会し、林勝男副会長（昭和四十五年機械科卒）の開会の辞で始まりました。

物故者追悼では、旧職員・同窓生ら平成二十五年度中に亡くなられた方々五十一名（平成二十五年五月～平成二十六年五月判明分）のご冥福をお祈りして黙祷いたしました。

会長挨拶では森一政会長（昭和四十一年電気科卒）は、次のとおり述べました。

「五月二日の本校創立百十五周年の記念式典では新入生も校歌を斉唱したが、入学式から一ヶ月も経っていないのに、その校歌は格段に成長していた。この間の学校当局の生徒に対するご指導に対し、あらためて敬意を表するとともに感謝申し上げる」

「今年四月に平野孝幸校長先生が新しく赴任され、学校運営に非常な熱意をもって取り組んでいただいている。今後、ものづくりや部活において小倉工業の名を高めていただけるのではないかと大きな期待をしている」

「学校に負けないように我々も母校を思う心を前面に出して、北辰会の目的である同窓の憩いの場とする、また母校ならびに在校生を支援する、こういった強い思いを持って、北辰会の活動に取り組んでいかなければならないと思う。北辰会の活動に今一層のご協力をお願い申し上げる」

続いて、学校長挨拶を平野孝幸校長が述べました。

次に、石田浩一ＰＴＡ会長（昭和五十九年電気科卒）によるＰＴＡ会長挨拶、それから林勝男副会長（昭和四十五年機械科卒）が部活動後援会長挨拶を代行して行いました。

来賓紹介の後、平成三年卒当番幹事恩師、大林郁夫先生が代表して祝辞を述べました。

総会議案審議は、恒例により森会長が指名されて議長を務めました。

坂田智之事務局長（昭和三十六年機械科卒）から平成二十五年度事業報告および決算報告、そして平成二十六年度事業計画案および予算案が一括して提案されました。引き続いて福井一憲監査（昭和五十年機械科卒）より平成二十五年度会計監査報告がありました。

前記の報告および提案について一括して審議の上、総会の承認を得ました。

役員改選については、選考委員会の小屋敷憲治氏（昭和四十一年工業化学科卒）より、新役員名簿が提案されました。提案を審議の上、総会の承認を得ました。

◇　◇　◇　◇

新役員紹介（敬称略）

会長
篭原　裕明（新任）
（昭和42年電子科卒）

副会長
森　一政（再任）
（昭和41年電気科卒）
林　勝男（再任）
（昭和45年機械科卒）
竹川　均（再任）
（昭和49年機械科卒）
西中勝明（新任）
（昭和55年電気科卒）
池尻純子（新任）
（平成20年工業化学科卒）

監査
岡田豊実（再任）
（昭和41年電気科卒）
福井一憲（再任）
（昭和50年機械科卒）

新役員の自己紹介終了後、新役員就任挨拶を篭原裕明会長が行いました。

総会は、母校応援団指揮のもと、母校吹奏楽部の伴奏で校歌を斉唱し、竹川均副会長（昭和四十九年機械科卒）の閉会の辞で閉会しました。

北九州の活天地・・・意気天を衝く益荒男

北辰会会長
篭原 裕明
（昭和42年
電子科卒）

浅学非才の私をご指名頂きました全国でご活躍の小倉工業高校同窓の皆様の熱きご支援にこたえられますように、また、母校思いで無償の奉仕をモットーとした岩下俊作先輩の生き方を地でいかれた先輩諸氏の足跡を大事にしながら役員一同頑張っていきます。ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

伝統を引き継ぐ活動を目指して

全国の小倉工業高校同窓の皆様、お元気でご活躍のこととお慶び申し上げます。

去る五月二十五日の北辰会総会にて北辰会会長に選出されました篭原です。森前会長より公務ご多忙中で会長職を続けることが難しいとの話を受け、会長に指名頂き北辰会総会を経て会長に就任いたしました。副会長で残留された森会長、新たに若い紅一点池尻さん始め選出された三役で今期のスタートを切っています。

思い起こせば、成重先輩、杣先輩、佐々木先輩、赤尾顧問、長野先輩そして、森前会長と、北九州はもとより全国の実業界・各界で活躍されたすごいリーダーの元に小倉工業高校同窓会北辰会は活動がなされてきたと、つくづく思っています。

母校のめざましい活躍を支援します

さて、母校は、今年度素晴しい活躍を見せています。学習面では、日頃の学習を深め専門力を高めるための知的財産に関する全国の開発事業参加校に選ばれ、創造的な手法を取り入れた授業実践を行うなど素晴しい教育実践が行われています。部活動では、陸上部のインターハイ連続出場は三十二年とつづき、ロボット競技大会では四年ぶりに県大会優勝、全国大会出場を果たしています。先輩諸氏が期待している野球部も若き指導者が四月より赴任され更に強いチームを目指して日夜練習に励んでいます。これからの活躍が楽しみです。

先輩の絆を母校の支援へ

今、専門高校（工業・農業・商業など職業系の学校）が全国で注目されています。学びの仕方が多様化する中で科学技術やものづくりなど産業界で即戦力になる事例が多く出てきています。その中核校である小倉工業高校の役割はもっと重要になります。母校生徒の皆さんの活躍と先生方の熱心な指導を大いに期待しています。

そのためには、土台の強い小倉工業高校をつくらなければなりません。そのベースになるのが同窓会活動です。全国の企業や地域でご活躍の卒業生の皆様の英知を結集して母校を支えていきたいと思っています。その元となるのが日々の各地・職場での同窓会活動です。同窓生の皆様が親睦を深められ、気軽に交流できる活動を目指します。よろしくお願いいたします。

寒い季節となります。同窓生各位のご健康を祈念しご挨拶とさせて頂きます。

部活動後援会活動報告

会長　林　勝男
（昭和45年機械科卒）
（新役員右から三人目）

◇部活動がんばろう会

平成二十六年七月二十九日、小倉飯店において十八時三十分から行われました。

参加者は、学校関係二十九名、同窓会関係三十名、保護者十九名、合計七十八名でした。

昨年同様、第一部は外部講師による講演。第二部は懇親会形式で行いました。

第一部の外部講師は、県立大学キャンパススクール校長・本田和人氏で、熱のこもった話しぶりは、大変意義あるものでした。

第二部の懇親会では、講師のところに歩みより、色々な疑問質問を投げかけての会話風景が印象的でした。

また懇親会の中では、部活顧問の先生方による力強い決意表明もしていただき、会場内に大きな拍手が沸き起こり大変盛り上がりました。

第一部講演会、第二部懇親会というこのスタイルは、今後も当分続けていきたいと思っています。

◇オープンゴルフ大会

平成二十六年十月二十二日、チェリーゴルフクラブ小倉南コースにおいて八時三十分から行われました。参加者は五十八名で、昨年より幾分少なかったようでした。

あいにくの曇り空の中でスタートし、途中小雨の降る中悪戦苦闘していたようです。

ただ高齢者の多い中、和気あいあいとプレーをし、しっかりコミュニケーションも取れていたようで、嬉しい限りでした。

ダブルペリア方式により競技終了後、結果が判明するまでのモニター画面を食い入るように眺める参加者の光景が印象的でした。表彰式では、近年賞品を果物に変えたのが大変好評で、皆さんから喜んでいただいております。特に参加賞の生卵（味宝卵）は、購入者がいるほどの人気振りでした。

入賞者は次の通りです。
（敬称略）

【男性の部】
優勝　大林　郁夫（旧職員）
準優勝　小田　伯雄（昭44機）
三位　西尾　純一（昭43機）
ベストグロス　樋口　政美（一般）86

【女性の部】
優勝　加賀美和子（一般）
準優勝　佐藤千代美（一般）
三位　西尾　英子（一般）
ベストグロス　加賀美和子（一般）99

☆当日賞
田中　義隆（一般）
☆ＢＢ賞
竹川　均（昭49機）

贈呈式・記念講演が行われました

野見山　誠一さん（昭和三十六年電気科卒）

五年前の平成二十一年に野見山さんから母校に寄贈された高速カラー印刷機が大活躍し、生徒の教材、配布物もカラー印刷となり、使用頻度も既に二百万枚を超えました。

オーバーホール（費用は約八十万円から百万円）の時期が近くなったため、野見山さんに相談したところ、快く最新機種をもう一台寄贈してくださることになり、九月末に母校の印刷室に設置されました。

高級乗用車が買えるほどの高価な印刷機を都合二台も寄贈していただきました。

十一月六日、その印刷機の贈呈式が体育館で行われ、野見山氏から平野校長に目録が渡されました。

野見山さんは贈呈式の後、全校生徒に「人生の生き方、会社と仕事、基本が大切、人生プラン」と題して講話を行いました。

何事もすべて、夢を持って、前向きに、一所懸命に、取り組み、好循環な考え方で、たとえ失敗しても、その失敗から多くのことを学ぶ、また人生において目標を決めて計画をつくるなど、野見山さんの実体験に基づくお話に生徒も熱心に聴き入っていました。

教育振興基金報告

平成二十四年度には、五百十一件の個人および団体より合計二百九十六万余円の募金を賜りました。

皆様からのご協力により、平成二十五年度教育振興基金では次の事業を行いました。

一、山田奨学会
　一般奨学生　一名
　十二万円
一、科学研究奨学会
　五十万円
掲示教育推進
　デジタルサイネージ
　（三年計画最終年）
一、部活動などの奨励
　五十万円
（陸上部、ものづくり部、メディア部、吹奏楽部）
一、国際研修
全国工業校長会主催海外研修事業
（カナダ、アメリカ）
　二十八万一八四〇円
一、予備費
次世代リーダー養成塾
部活動全国大会補助
　二十万八四〇円

以上は母校の要請により事業を行いました。

平成二十五年度は、四百八十五件の同窓各位・団体から合計二百二十二万余円を賜りました。

皆様からの浄財は平成二十六年度の教育振興基金の活動にあてられます。

北辰会事務局へ直接現金を納入された寄付金は次の方々です。（敬称略）

福井一憲（昭50機）一万円
坂田智之（昭36機）五万円
木村恵美子（学校事務）一万円
田中亮平教諭　一万円
松永佳幸教諭　一万円
大山　勝（昭39電）十万円
中村達志教諭　一万円
篭原裕明（昭42電子）十万円
森　一政（昭41電）三万円
㈱長田石材工業　一万円
北辰会小倉北支部　五万円
赤尾正洋（昭26機）十万円
藤河勝幸（昭36機）三万円
部活動後援会　八十万円

その他多くの会員各位からご協力いただきました。深く感謝申し上げます。

2014サマーフェスティバル開催報告

北辰会小倉北支部主催の「2014サマーフェスティバル」が、平成二十六年八月二十二日（金）午後六時三十分から、小倉飯店（北九州市小倉北区堺町一丁目一番十四号）で開催されました。

参加者は、北辰会関係の方が四十三名、学校関係の方が十六名、PTA関係の方が三名、合わせて六十二名でした。そのほかに本校来訪中の韓国・仁川機械工業高校の先生および同窓会関係の方が九名、来賓として出席されました。

小屋敷憲治支部長（昭和四十一年工業化学科卒）の小倉北支部長挨拶に続いて、篭原裕明北辰会会長（昭和四十二年電子科卒）が北辰会会長挨拶を述べました。

「仁川機械工業高校と小倉工業高校が四半世紀におよぶ姉妹校交流を続けることができたのは、このサマーフェスティバルが重要な交流の場となっている」

「両校の同窓会は共に母校の生徒・学生のいろいろな活動を支援している。この機会に、それぞれの同窓会がどのような活動をし、母校の支援をしているのか、苦労話を含めた交流をさせていただきたいと思っている」。

次に平野孝幸校長が学校長挨拶を述べました。

「仁川機械工業高校と我が小倉工業高校との姉妹校提携は、一九八九年に締結され、今年二十五年目を迎える」「この間、両校がお互いに訪問しあうなか、友好かつ意義ある交流を行ってきた」「特に我が校が仁川機械工業高校を訪問させていただくときは、いつも大変温かい歓迎をいただき、あらためてお礼申し上げたい」「本日、教員同士の交流会での教育懇談に際し、これまでの文化的な交流を更に発展させて、技術面での交流部門を深めていきたいという話をした」。

来賓挨拶を尹仁文（ユン・インムン）校長が述べました。

「私は今年三月、仁川機械工業高等学校の校長に赴任した」「私が仁川機械工業高校に勤めていた二〇〇二年にも、このような同窓会の行事であるサマーフェスティバルに参加したことがある」「二〇〇五年からは仁川機械工業高校を離れて他の場所で勤務していたが、小倉工業高校との交流と美しい思い出は忘れることができなかった」「両校はこれまで文化交流、スポーツ交流、技術交流などを続けていっており、同窓会の皆さまとも時々イベントで、このように一緒にさせてもらったことがあるといっている」。

懇親会は、北辰会若戸・遠賀支部の中野茂支部長（昭和四十二年工業化学科卒）による乾杯の音頭で始まりました。

余興として、竹森雅治氏（本校事務次長）がサキソフォン演奏を行い、韓国の歌（アリラン）や日本の歌（ふるさと）など披露しました。

来賓の方々は、各テーブルを回り、それぞれの場で酒を飲み交わし、乾杯を繰り返していました。

宴の終わりは、恒例のビンゴゲームが行われ、来賓の方々も一緒になって楽しんでおられました。

中野敏昭氏（本校教頭）の発声で万歳三唱し、今年のサマーフェスティバルは閉幕いたしました。

平成25年度にご逝去された方々

ご逝去された方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。

（平成25年5月11日より平成26年5月10日までに連絡のあった方々）

（敬称略）

旧職員	村岡　忠昭	昭22年機3種	鍬田　正勝
昭8年機	永井　功	昭22年機3種	中野　太郎
昭9年電	杉田　忠信	昭24年電	山下　一夫
昭12年電	古賀　治	昭25年電	梅本　隆
昭13年機	井上　重幸	昭26年機	大久保房男
昭14年機	香坂　勲	昭26年機	橘　俊勝
昭14年機	井澤　文男	昭26年機	原田　和己
昭14年機2部	河内　邦夫	昭26年電	長野　正雄
昭16年電	林　敬之	昭26年電	三島　等
昭18年機1種	植波　正昭	昭23年併中	山手　義昭
昭20年機1種	青木　延茂	昭27年電	福本　新平
昭20年機1種	松岡　藤助	昭28年機	槌本　忠寛
昭20年機専	尾崎　孝義	昭28年機	椿　達雄
昭20年電2種	福永　和雄	昭28年電	坪田　博敏
昭21年電3種	釜谷　久昭	昭28年電	原田　八武
昭29年機	生原　政弘	昭29年機	冨塚　寿
昭29年電	鋤崎　久範	昭29年電	横尾　研輔
昭29年化	奥村　博	昭30年電	井原　太郎
昭31年機	岡田　弘一	昭31年電	川波　重臣
昭32年機	森園　光	昭31年電	吉田　豊
昭32年電通	木村　剣	昭34年機	辻　義之
昭35年電	藤田　豊	昭35年電通	中野　晏至
昭38年機	杉田　光明	昭38年機	林田　次成
昭39年機	坪井　豊治	昭40年機	中村　幸雄
昭42年電子	高橋　修	昭44年化	井崎　繁喜
昭45年機工	菅　賢一		

平成25年度 北辰会決算書　及び　平成26年度 予算案

費目		平成25年4月1日～平成26年3月31日 予算額	決算額	対比増減	摘要	平成26年度 予算額	摘要
収入	前年度繰越金	591,633	591,633	0		566,762	
	同窓会費	2,800,000	2,477,000	323,000	1,239件	2,800,000	@2,000円×1,400名
	新入生入会金	600,000	600,000	0	@3,000円×200名	597,000	@3,000円×199名
	在校生同窓会費	3,588,000	3,566,500	21,500	@500円×12ケ月 ×1,2,3年	3,564,000	@500円×12ケ月 ×1,2,3年（594人）
	預金利息	67	103	△ 36	福銀1　13円　福銀2　90円	38	
	名簿販売金	112,500	112,500	0	25冊	112,500	@4,500円×25冊
	雑収入	307,800	550,350	△ 242,550	総会より500,000円	59,700	
	合計	8,000,00	7,898,086	101,914		7,700,000	
支出	支部還元金	100,000	87,000	13,000	支部活動支援費	100,000	支部活動支援費
	組織対策費	300,000	281,400	18,600	組織強化費用	350,000	組織活性化・組織強化費
	大名簿編集費	1,000,000	1,000,000	0	名簿積立金	1,000,000	平成28年度改訂積立金
	部活動後援費	1,400,000	1,100,000	300,000	部活動支援費用、同窓会バス補助	1,200,000	部活動支援費用、同窓会バス補助
	事務手当	1,000,000	1,000,000	0	事務局長手当	1,000,000	事務局長手当
	人件費	1,400,000	1,377,075	22,925	パート代（交通費含）	1,400,000	事務局パート代
	印刷費	180,000	164,500	15,500	コピー機リース代・インク代	180,000	コピー機リース代・インク代等
	会報費	500,000	491,714	8,286	北辰会報春季号	500,000	北辰会報印刷費、発送費
	会議費	100,000	95,434	4,566	理事評議員会・支部代表者会議	100,000	理事評議員会・支部代表者会議
	通信費	150,000	121,324	28,676	電話代・領収書葉書代・案内等	150,000	電話代・会議通知送料・領収書葉書代等
	旅費交通費	300,000	219,770	80,230	各支部総会出席旅費等	300,000	支部総会等出席旅費・事務局交通費
	永年勤続表彰費	90,000	90,000	0	3名	0	学校職員10年勤続者該当者無し
	慶事費	150,000	145,750	4,250	支部総会祝儀・花輪代等	150,000	各支部総会祝儀等
	産業教育振興会費	5,000	5,000	0	1口	5,000	産業教育等協賛費年会費1口
	事務用品代	150,000	144,410	5,590	コピー用紙、紙折機代他	150,000	事務局事務用品等
	振替手数料	100,000	88,960	11,040	会費振替手数料	100,000	会費振替手数料等
	雑費	50,000	41,379	8,621	茶葉代等	50,000	茶葉代等
	事務局運営費	250,000	170,403	79,597	水道光熱費、家賃、清掃代等	250,000	水道光熱費・事務局清掃代・家賃
	予備費	745,000	78,225	666,775	パソコン代他	685,000	
	北辰会長表彰費	30,000	28,980	1,020	生徒表彰記念品代	30,000	生徒表彰記念品代
	寄付	0	600,000	△ 600,000	基金へ	0	基金へ
	合計	8,000,000	7,331,324	668,676		7,700,000	
次年度繰越金			566,762		福銀1　28,278円 福銀2　280,556円 現金　257,928円		

平成25年度　北辰会定期総会決算書（平成2年・平成14年卒当番幹事）

費目		金額	摘要
収入	総会会員券	1,505,000	@5,000円×301枚
	広告料	2,255,000	@5,000円×451口
	雑収入	711,248	祝儀100,000円　イベント収入143,500円　前年度準備金463,748円　その他4,000円
	合計	4,471,248	
支出	総会費	2,195,861	総会飲食費、会場関係費、会場費、アトラクション代、写真代、総会資料及び会員券等印刷代、送料等
	当番幹事会議費	386,000	当番幹事会議費及び反省会費
	事務局運営費	1,889,387	次年度準備金315,626円　同窓会寄付500,000円　冬季会報費391,630円　通信費、雑費、事務局運営費等
	合計	4,471,248	
差引残高		0	

基金会計（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

費目		金額	摘要
収入	前年度繰越金	13,520,424	ゆうちょ銀行定額預金　4,100,000円 福岡中央銀行定期預金　9,420,424円
	預金利息	1,887	ゆうちょ銀行利息309円　福岡中央銀行中間利息1,578円
	寄付	600,000	平成25年度一般会計より
	合計	14,122,311	
次年度繰越金		14,122,311	ゆうちょ銀行定額預金　3,400,000円 福岡中央銀行定期預金　10,722,311円

名簿積立金（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

費目		金額	摘要
収入	前年度繰越金	3,216,360	ゆうちょ銀行定額
	名簿積立金	1,000,000	名簿引当金（平成28年度改訂名簿編集費）
	利息	1,325	
	合計	4,217,685	
次年度繰越金		4,217,685	福岡中央銀行定期預金

平成25年度　教育振興基金（一般会計）決算書

費目		本年度予算額	本年度決算額	差引増減額	備考
収入	前年度繰越金	3,508,128	3,508,128	0	前年度繰越金
	寄附金	2,900,000	2,227,786	△ 672,214	
	雑収入	872	366	△ 506	預金利息
	合計	6,409,000	5,736,280	△ 672,720	
支出	特別奨学金費	600,000	0	600,000	
	山田奨学会費	120,000	120,000	0	@10,000円×1名×6月（前期） @10,000円×1名×6月（後期）
	科学研究奨学会費	500,000	500,000	0	情報教育システム物品購入
	部活動奨励費	500,000	500,000	0	
	教育研究奨励費	200,000	0	200,000	
	国際研修費	300,000	281,840	18,160	全工協カナダ研修
	管理費	200,000	115,310	84,690	振込用紙印刷代
	事務費	350,000	334,420	15,580	同窓会館財産使用料、切手代
	予備費	3,639,000	200,840	3,438,160	次世代リーダー養成塾 陸上部インターハイ 国民体育大会（陸上部） 全国ロボット競技大会
	合計	6,409,000	2,052,410	4,356,590	

収入額　5,736,280円　－　支出額　2,052,410円　＝　3,683,870円（次年度へ繰り越し）

平成25年度　教育振興基金（特別会計）決算書

費目		本年度予算額	本年度決算額	差引増減額	備考
収入	前年度繰越金	9,019,594	9,019,594	9,019,594	前年度繰越金
	雑収入	406	1,436	1,030	預金利息
	合計	9,020,000	9,021,030	1,030	
支出		0	0	0	
	合計	0	0	0	

収入額　9,021,030円　－　支出額　0円　＝　9,021,030円（次年度へ繰り越し）